

RIKKYO SECOND STAGE

Contents

P1 「心に火を付け合う出会いの場」

P2~3 清里本科合同ゼミ合宿·夏季集中講義

P4~5 本科ゼミ課外活動の紹介

P6~7 専攻科生の声・サポートセンター・公開講演会ほか

P8 クリスマス・下村大臣視察・見学会ほか

立教セカンドステージ大学(RSSC)は、立教大学が提供する生涯学習の場です。RSSCは、RIKKYO SECOND STAGE COLLEGEの略称です。



発 行:立教大学 「立教セカンドステージ大学」

編集責任:上田恵介 編集長:岩澤延枝

発 行 日:2015年2月25日

〒171-8501 東京都豊島区西池袋 3-34-1



「心に火を付け合う出会いの場」

立教セカンドステージ大学教員 菊野 一雄



立教セカンドステージ大 学の皆さんは職場や子育て からの卒業を機に、あるいは 卒業を前にして、セカンドラ イフを如何に充実して生き るかという知的好奇心を膨 らませていることと思いま す。

周知のとおり、立教セカン

ドステージ大学は、シニア世代の「学び直し」と「再チャレンジ」を目指して自由闊達に切磋琢磨し合う生涯学習の場です。「大学」という名が冠されているとおり、総合的な体系を持ったカリキュラムが展開され、知的探求を深めることのできる「最高の学府」です。皆さんは「学び直し」を通じて、自分のこれまでの経験や知識を再整理し、自らのセカンドライフの生き方と社会貢献に役立てていこうという意欲に燃えていることと思います。

昨今の日本の大学はグローバル化と少子化の隘路の中で苦悶しているようですが、立教セカンドステージ大学はこのような情況とは裏腹にのびのびとした知的探求と、学友とじっくり語り合える喜びを謳歌できる「治外法権のような存在」と言えるかもしれません。誤解を恐れずに言うならば、ここには口は出すが金を出さないOG・OBも、昔の学生時代の体験レベルの教育論を押しつ

けようとする外部の圧力も、自分のことは棚に上げて「グローバル人材を育成せよ」などとのたまう官僚や政治家もいません。我々は自由に自らのセカンドステージ(第二の人生)の探求に勤しむことのできる幸せを噛みしめるべきであると思います。

また、立教セカンドステージ大学は同窓会組織がしっかりしており、卒業後も毎年同窓生懇談会や著名人による講演会などが開催されています。さらに、在校生と修了生による社会との共生や社会貢献のグループ活動を支援する「RSSC(立教セカンドステージ大学)社会貢献活動サポートセンター」が設立されています。RSSCには以下の10の研究グループがあり、活発な活動を行っています。

①「アジアの貧困とNPO・NGO支援研究会」、②「かがやきライフ研究会」、③「都会・癒し・自然交流研究会」、④「ウクレレ合唱団『鈴懸』」、⑤「日本に住む外国人を考える会」、⑥「生きがい創造研究会」、⑦「アクティブシニア研究会」、⑧「立教異世代交流俱楽部」、⑨「コミュニティ活動研究会」(豊島区の"としまNPO推進協議会"とのコラボレーション)」、⑩「RSSCアクティブシニア活動俱楽部(仮登録)」。

いずれにしても、立教セカンドステージ大学は「学び直し」と「再チャレンジ」を目指して「心に火を付け合う出会いの場」ではないでしょうか。



2014年度

9月5日~7日の日程でRSSC本科合同ゼミ合宿 が清里の「清泉寮」で行なわれ、本科生67名教職員6 名が参加しました。充実した内容と新たな出会い、豊 かな自然環境や新鮮な素材の食事などひとつひとつ がかけがえのない思い出となりました。

■9月5日…1日目

08:45 立教大学集合

09:00 出発

12:00 「清泉寮」到着 <昼食・チェックイン>

14:00 ビデオ鑑賞

「ポール・ラッシュ博士の生涯 | 13:30 オプションイベント

16:00 千石先生講演会

<自由時間・夕食>

18:30 星空観察会

19:15 キャンプファイヤー

21:00 自由時間~就寝



■ 9 月 6 日… 2 日目

<早朝散歩・朝食>

08:30 自然保護観察

09:30 聖アンドレ教会見学 武藤六治チャプレン講話

< 昼食>

<自由時間・夕食>

18:30 懇親会

21:00 自由時間~就寝

■9月7日…3日目

<朝食>

09:00ポール・ラッシュ 記念センター見学

10:00 出発

13:00 到着~解散

清里の食事

富士山を眺めながらのダイニングは、私たち受講生の 心を幸せにしてくれる場所でした。食事は武藤六治チャ プレンのお祈りから始まり、仲間との交流や楽しい会話 が弾みました。清里の美味しい野菜や乳製品を中心にし た料理の数々に「あれも食べたい、これも食べたい」と 目移り状態でした。

野菜から食べ始めている人は、集中講義の「健康長寿



とアンチエイジン グーを実践してい る人たちです。も ちろん健康ばかり を考えていたわけ ではありません。 料理は「美味しい」 情報に釣られ「あ れも食べる、これ

も食べる | で、私たちの前からすぐに消えていきました。 デザートは別腹だから大丈夫と言い聞かせ、食後にもか かわらず何種類も食べている人も大勢いました。

私たちの体重と受講生間の交流が増えていった楽しい 三日間でした。

清里の自然

清里と言えばなんといっても、雄大な南アルプスや華 麗な富士山と、それらを包み込む大天空が繰り広げる、 24時間尽きることのない壮大なパノラマショーです。今 回の合宿では、到着日は天気に恵まれず、星空観察会は



室内での開催となりました が、星座や銀河系に関する たくさんの話に、心はもう 星空のかなたへ。

そして翌朝、前日まで雨 模様であたりを包んでいた 霧が、私たちの到着を歓迎

するかのようにさっと晴れわたり、美しい富士山が姿を 現しました。

爽やかな高原の空気に誘われて、まずは寝起きの散策 に出かけました。眠気覚めやらぬ頭と心は野鳥の鳴き声 ですっかりと覚醒し、朝食も美味しく進みました。食後 は、レンジャー(自然案内人)に伴われての自然保護観 察プログラムです。標高1,400メートルに広がる清里高原 の豊かな緑と、ひとりで歩いていたら気づかないような こともわかりやすく話すレンジャーの説明に、充実した 森の時間を過ごすことができました。

清里の歴史

清里合宿で得た大きな収穫が、清里開拓の歴史と清泉 寮等の運営を行うキープ教会との深い絆、及び立教大学・ 米国聖公会との関係、そして開拓の精神を知ったことで





特に「清里の 父」と呼ばれて いる米国人ポー ル・ラッシュ博 士の来日の逸話 と立教大学教授 としての活躍、 酪農事業の創 生、度重なる米

国での募金活動、青少年の育成、様々な医療活動など初 めて知ったことが数多くありました。二日目に聖アンデ レ教会で博士と共に長年活動された武藤六治チャプレン の講話も参加者のこころに大きく響くものでした。

博士の業績を聴いた後に見学したポール・ラッシュ記 念センターと旧居も意義深いものとなりました。清里合 宿でのこころの共通体験は私たちを永く結び付けて行く ものと思います。

本科合同世具合宿



清里 キャンプファイヤー

清里に着いたときは雨で、予定されていたキャンプファイヤーはどうなるのか気がかりでしたが、幸いにも雨があがり無事開催することができました。



木村ゼミ委員長の司会のもと、「遠き山に日は落ちて」を歌い、その中を女神が登場するところから始まります。女神はなんと千石英世先生!

ゼミ長が誓いの言葉を

唱えながら点火していきます。ここで「燃えろよ燃えろよ」の斉唱。学生気分全開でした。

第二部は元気な女性たちの司会で、全員が火を囲んで歌ったり、踊ったり、ゲームをしたり。司会もうまい! ジェンカになるとさすがに飛んだり跳ねたりするのについていけなくなった人も何人かいました。

全員が青春に戻って楽しいキャンプファイヤーとなり ました。

清里 懇親会

二日目の夕食後は懇親 会でした。楽しい雰囲気 の中で、全員参加による 各ゼミごとの自己紹介が 繰り広げられました。

自己紹介に続いて、従 来のゼミ単位の壁を越え



るべく、トランプを使ったイベントが始まりました。「も し宝くじで、三億円当たったら、あなたはどうします か?」などの問いに、それを題材にして話を進め、各グ ループ大いに話が盛り上がりました。

清里合宿で唯一お酒が提供されたのがこの懇親会でしたが、このイベントにより、更にお互いの理解が深まったと思います。実に、楽しい仲間との語らいでした。

これを機会に、スムーズなコミュニケーションが広 がって、秋学期の授業の際での相互理解へとつながって いったと思います。

夏季集中講義の思い出

特色のある夏季集中講義(歴史の中の学校教育・環境保全とコミュニティ形成・現代社会を考える・セカンドステージの住まいづくり・健康長寿とアンチエイジング・高齢者の生活と介護保険)に多くの受講生が参加しました。

環境保全とコミュニティ形成

RSSCの授業は学内だけにとどまりません。永石文明先生の夏季集中講義「環境保全とコミュニティ形成」はそのひとつです。教室を飛び出した探究心旺盛なアクティブシニアー行は8月2日、東久留米市の落合川を訪



れました。ここでは、環境 保全に取り組んでいる地元 の方から、活動状況や行政 との連携について貴重な体 験を伺いました。

翌日はさいたま緑の森博

物館を訪れました。ここは、狭山丘陵の雑木林や湿地などの里山を展示物と見たてた「そのまま狭山丘陵博物館」です。ここでも地元の方から、森の生き物を守ることや自然のすばらしさについての話をお聞きし、二日間ともに現場でしか得られない有意義な時間を過ごしました。

一方で、シニアドリンカーズはハイキング気分でウキウキ。ところが、8月2日・3日は連日の猛暑でシャツは塩を吹き、飲み物は熱燗寸前の決死の行進となりました。4日の学内ワークショップの後に飲んだビールの旨かったこと!

健康長寿とアンチエイジング

8月29日から週末を挟んだ三日間、夏季集中講義「健康長寿とアンチエイジング」が開講されました。講師の米井嘉一先生は、同志社大学大学院生命医科学研究科アンチエイジングセンター教授で抗加齢医学の専門医として著名な方です。講義の目標は、健康長寿で生活の質



(QOL)向上のため、 均質な老化を目指すも ので、弱点を克服し調 和させることにより、 健康長寿を実現するこ とです。

講義では、抗加齢医

学の研究を踏まえて、食事・運動・精神の三つの視点から、どのようなことを行えば良いかを具体的にわかりやすく説明していただきました。

受講しておしまいではなく、教えていただいたことを 実践して生活習慣を改善し、元気に長寿を享受しようと の思いを新たにしました。

本科ゼミ課外活動

♪渋沢史料館を訪ねて♪ 老川ゼミ

台風19号が過ぎ去った10月のある日、老川ゼミでは先生にご一緒いただいて、王子駅近くにある渋沢栄一史料館を訪問しました。渋沢栄一は1840年に埼玉県深谷市に生まれ、明治、大正、昭和に渡って活躍した実業家で、先生のご専門である近代経済史にもしばしば登場する人物です。

旧渋沢庭園にあるバンガローから 命名された晩香盧 (ばんこうろ)と、 書庫や接客の場と して使われていた 清淵(せいえん)文



庫は、大正時代に建てられた国指定の重要文化財です。 今も、当時の姿で保存されて内部公開されていますが、 大正ロマン香り漂う貴重な建築物に接し、一同はしばし のタイムスリップです。さらに、老川慶喜先生にご説明 いただきながらの見学は、渋沢栄一の活躍と当時の時代 背景の理解を深める、得がたい機会となりました。

また、隣接する飛鳥山博物館内でのランチは、安くて 美味しく話も弾み、楽しいひとときを過ごしました。

♪秋の集い♪ 菊野ゼミ

秋最中の吉日、菊野ゼミは池袋近郊を散策しました。 まずは駒込駅近くの「六義園」です。五代将軍・徳川綱 吉の信任が厚かった川越藩主・柳沢吉保が築庭し、明治 時代には三菱創業者・岩崎弥太郎の別邸となりましたが、 昭和になって東京市(都)に寄贈されました。春のシダ レザクラ、秋の紅葉は見事で、特に標高35メートルの藤 代峠に上り、殿様が休憩されたといわれる石椅子に座り 園全体を眺めると、正に徳川の殿様になったような気分 です。また茶店で赤い毛氈に腰かけ、団子、お茶をいた だくと日ごろの都会の喧騒も忘れてしまいます。

次に訪れたのは巣鴨のとげぬき地蔵(高岩寺)、ご存じ「おばあちゃんの原宿」、我々としては若干抵抗があったのですが、病気や痛みのあるところを洗うと効き目があるといわれる「洗い観音」では皆さん神妙に水を掛けていました。

そして最後の仕上げはやはり反省会(飲み会)、菊野ゼミでは毎週ゼミの後はセントポールズ会館で反省会をするのですが、当日は場所を替えて大いに盛り上がりました(何を反省したのかは定かではありませんでしたが)。

♪秋の都内散策♪ 安島ゼミ

快晴の空の下、安島ゼミ有志が銀座コリドー街に集合、 観光をテーマにした秋の課外活動のスタートです。

訪日する外国人観光客が楽しみにしているのが、魚を中心にした和食です。そこで昼食は魚料理に決め、近畿大学水産学部の直営店でマグロを味わうことにしました。幸運にも近大マグロと豊田通商育ちのマグロの味比べができましたが、どちらも脂が乗っており美味満点でした。きっと、外国の方にも魅力的でしょう。

昼食後、ブリヂストン美術館を訪れて、モネ、セザン

ヌ、ピカソなどの所 蔵作品や企画展の デ・クーニングの絵 画を堪能しました。 作品からは、印象派 からキュビズム遷 からま現の変遷 動跡が見てとれ、私



たちの心はすっかり芸術の秋です。

その後、安島博幸先生および途中参加の仲間が合流し、 ホテルでのディナーや華麗なる夜のエンターテイメント を満喫。一同大満足した秋の都内散策でした。

♪ 笑顔と笑いが常にあふれていた♪ 庄司ゼミ

庄司ゼミは、先生も含めて14名の人生経験の豊かな個性あふれる仲間が集まっています。ゼミの終わった後は毎週のように集まって、政治・経済から文化やスポーツ、

そして今後の人生の夢など を語り合い、話が尽きること がありません。

そのハイライトは8月25・26日の軽井沢一泊旅行です。 別荘を借りて食材を調達し、 人目や時間を気にすること なく心行くまで語り明かし ました。翌日は白糸の滝や浅 間火山博物館、鬼押出しなど



を観光、心に残る旅行になりました。



秋冬も六大学野球 応援 (慶立戦)、三井 美術館や浅草寄席観 劇、忘年会、伊豆卒 業旅行と、庄司ゼミ は仲間と目一杯楽し みました。

♪素敵な京都研修旅行♪ 鈴木ゼミ

「本当の知識とは、頭ではなく五感を通して知るものだ」。鈴木ゼミには、現場体験を重視するメンバーが大勢います。ですから清里合宿、上高地自然観察会、里山がテーマの夏季集中講義、立教原子力研究所の見学、東京六大学野球の応援など、校外活動での参加者数トップは

いつも鈴木ゼミです。



そんな好奇心たっぷりの出たがり見たがりが、秋季休業中にじっとしている筈がありません。鈴木正男先生もお誘いして「京都研修旅行」を敢行しました。京都では知恩院を振り出しに、お隣の青蓮院を見学、落慶したばかりの清龍殿では一人一人が願い事を書いて散華しました。木屋町

で夕食とお酒と会話を楽しんだ後は、先斗町・祇園に歩 を進め、心地よい大人の一日を締めくくりました。

翌日は知恩院の宿坊から特別公開中の御所へ向かい、 萬福寺と平等院を回って京都駅で解散しました。まだま だ知らないことがあった素敵な京都研修旅行でした。

♪日本科学未来館♪ 上田信ゼミ

関東地方も梅雨明けした 猛暑の7月24日、上田信ゼミ の総勢9名は、お台場の日本 科学未来館を訪れました。

未来館は科学技術を文化として捉え、私たちの社会に対する役割と未来の可能性について考え語り合うための場として2001年に開館、館



長は元宇宙飛行士の毛利衛さんです。

入館すると最初にシンボルであるジオ・コスモス(宇宙空間に輝く地球の姿をリアルに映し出している直径約6メートルの地球形のディスプレイ)に目を奪われましたが、テーマは宇宙の探求だけではありません。難解そうなゲノム、深海、医療など、科学技術に関する様々な展示があり、しかも科学コミュニケーターやボランティアの方から、分かりやすい説明があります。そればかりか、アンドロイドと触れあったり、実験教室の体験や「プラ寝たリウム」の睡眠学習などを通して、我が国の最新テクノロジーの一端を垣間見ることができた有意義な一日でした。

♪ゼミの秋場所♪ 高橋ゼミ



高橋ゼミの 秋学期、初日 は大相撲秋場 所です。セカ ンドステージ といえど学生

ですから、身分をわきまえて二階席の一番後ろに陣取り、 豆粒ほどに見える力士に声を限りの応援を送りました。 大声援の後は、国技館近くのチャンコ料理店へまっしぐ ら。まずは喉の乾きを潤して、相撲談義を皮切りにキャ ンパスライフから身の上話まで、話題は尽きることはあ りません。最後は異口同音に、「この仲間とは生涯付き合 いたいね!」で締めくくりました。

もちろん、遊んでばかりではありません。毎週のゼミでは、高橋輝暁先生のご指導の下で議論百出、定刻に終わった例はなく、学外に場所を移しての白熱した議論が続きます。

先生はドイツ文学と哲学の大家ですが、ドイツ料理に も精通しておられ、年末の「歳忘れの会」は、先生ご紹 介の四谷のレストランで大いに盛り上がって一年を締め くくりました。

♪日本橋川クルーズと鎌倉小トリップ♪ 栗田ゼミ



8月12日には「日本橋川 クルーズ」を行いました。 かつては双十郎河岸があっ たあたりの日本橋船着き場 から10人乗りの可愛い船で 出発し、日本橋川周辺を1 時間ほどでめぐるクルーズ

です。次々と橋をくぐり抜け、所々で特製の古地図と重ね併せた解説があり、鬼平犯科帳など時代小説でおなじみの江戸時代の地名とその変わり様に思いを寄せて、のんびりと楽しむことができました。

11月4日の「鎌倉小トリップ」では、北鎌倉駅から円覚寺、東慶寺、浄智寺、建長寺、鶴岡八幡宮とめぐり、美味しいお蕎麦を楽しんだ後、鎌倉大仏、長谷観音などを

見て回りました。ガイド協会のガイドさんの解説により、今まで知らなかった鎌倉の魅力に触れることができ、またメンバーの新たな一面を知ることができ大変充実した一日となりました。



専攻科生の声

専攻科という扉の前にいた時と入った後



専攻科で共に学ぶ友人達に、「どうして専攻科に入ったのか」聞いてみました。答えは大きく三つに分けることが出来ます。先ず、「もう少し勉強したかった」という気持ちがあった事。二番目は「勉強を続けながら、サポート

センター等の活動を通して、卒業後の生き方を見付ける」 という目標があった事。最後は、「まだ何をするか決まっ ていなかったので、専攻科で学びながら模索したい」と 思っていた事です。

次に専攻科に進んでの感想です。専攻科では、PBL (Project Based Learning)をベースとして主体的に学習します。PBLはユニークな学習方法ですが、テーマを設定するまでに多大な時間を要しました。テーマが設定されると、テーマに基づき、グループでフィールドワークを行います。このフィールドワークは非常に面白く、また、ゼミの時間等を利用してグループで議論を深めます。時には居酒屋で侃々諤々の議論となり、専攻科生には至福の時間となります。

専攻科:内田隆彦

専攻科への進学を決めた理由と進学後の感想



私が昨年RSSC本科に出願した動機は、「肩書のない素のままの自分を棚卸し、同じような思いを持つ仲間との新たな出会いの下で、次のステージを設計する」というものでした。ただ仕事と掛け持ちの日々は、授業だけを消化した感が拭えず、本科修了と退職に

合わせて専攻科への再チャレンジを決めました。

RSSCの科目群は、特定の専攻分野の研究を希求する目的には十分とは言えない点が多いと思いますが、学際的な学問分野であるgerontology(高齢社会の人間学、高齢社会総合研究)を下敷きにした科目群を学ぶ事ができます。世界的にも類を見ない速度で高齢化が進む中、会社や子育てといった現役世代の責務を終え、老年期へと向かう世代の一員としては、学ぶに身近で、実践的なテーマと言えると思います。

通常授業のほかに、少人数編成のゼミ単位で行う問題解決型のプロジェクト学習や、RSSCが支援する各種の同好会活動は、次のライフステージ設計に向かうための動機や刺激を分かちあえる新しい仲間との「縁作り」の場にもつながると思います。

専攻科:大歳美恵子

社会貢献活動サポートセンターの紹介

在校生や修了生の社会との関わり合いや社会貢献活動を 支援するため、RSSCではサポートセンターを設置して います。現在10のグループが活動している中から、一番 新しいアクティブシニア活動倶楽部を紹介します。

アクティブシニア活動倶楽部は2014年に6期生によって設立された仮登録中の倶楽部で、3つの活動グループで構成されており、以下のように幅広く活動しています。

第一は「地域コミュニティ活動研究グループ」です。 この活動グループは「コミュニティ活動研究会」(サポー



トセンターの一つ)と連携を取りながら、豊島区で実施されている地域コミュニティ活動(おたっしゃ給食、変身講座、フリーマーケットの開催

等) への参加を通して、地域交流活動を学ぶことを目的 としています。

第二は「プラチナ社会創造活動研究グループ」です。 この活動グループは大手総合シンクタンクのプラチナ社 会研究会が運営している「セカンドキャリア分科会」の 共同提案者として活動に参加しています。7月4日には 同分科会で6期生メンバー3人が「アクティブシニアラ イフのためのリタイヤ前にすべきこと」と題して 問題提起をし、好評を博 しました。

また、「オリンピック・ レガシープロジェクト=



オリンピックによってもたらされる未来への遺産」(2020年オリンピックを社会改革のチャンスと捉える)にも参画しています。プラチナ社会構想と多くの共通点を持っていて、「世界で一番クールなシニアライフの実現」に向けて、今から期待に胸を膨らませています。

第三は「オウンライフ活動研究グループ」です。この活動グループには5つの「会」があります。今回紹介するのは「キリマンジャロの会」です。キリマンジャロの会はタンザニアにあるマサイの村に、全寮制の女子中学校(さくら女子中学校)開設を支援しようというプロジェクトです。岩男壽美子先生の「アジア・アフリカの貧困とNGO」の履修者を中心に約15名のメンバーが集まり、今までの経験を活かした役割分担による支援計画づくりやホームページの準備を進めています。この他に「ITをかじる会」では、約20名のメンバーがホームページの作成、パワーポイントの習得等に熱心に取り組んでいます。

国際鳥類学会議でボランティア



この夏、立教大学で開催された国際鳥類学会議の「ボランティア募集」を知ったのは、入学間もない5月下旬、藤やハナミズキの花が終わり、キャンパスが一面鮮やかな緑に包まれた頃でした。この会議は、130年の歴史を持つ、4年に一度の大変伝統ある国際会議です。26回目となる今回、日本で初開催が実現できたのは、RSSCで「生命の多様性」の講義と専攻科のゼミ担当教員であり、今会議の実行委員長でもある上田恵介先生の熱心な誘致活動の成果でした。参加者は日本から300人、海外63カ国から



約700人 の 計 1,000人を超え る大規模なもの で、実行委員会 のボランティア 募集の呼びかけ に、RSSC同 窓生、本科・専 攻科の現役学 生、及び、English Speaking Club (RSSCの卒業生と在校生による英会話クラブ)から合計30名の有志が集まりました。

8月18日の会議初日から24日の最終日まで、立教通りの街路灯には色鮮やかな木の葉と可愛らしい小鳥(ヤマガラ)がデザインされた会議の旗が一斉に飾られ、真夏の日差しと緑濃い樹木が繁るキャンパス内には、連日、世界中から集まった鳥を愛する研究者たちの賑やかな語らいと笑顔が溢れていました。

私たちは、参加者の登録受付、Tシャツなどの販売、アート・ギャラリーの警備、レストランでの誘導や日帰り旅行の付添いなどの支援をしました。それぞれの持ち場で、私たちの手振り身振りを交えた英語の対応に参加者の笑顔がほころび、文化の違いや言葉の壁を超えた温かい心のふれあいがありました。限られた接点ながら楽しい国際交流でした。後日、上田先生から会議は大成功だったとお聞きし、ボランティアスタッフ一同本当に嬉しく思いました。

立教セカンドステージ大学教員による

公開講演会

12月1日と15日の午後6時半から池袋キャンンパスで、上野千鶴子先生と鳥飼玖美子先生によるRSSCの公開講演会が開催されました。現代を象徴する「女性活用」と「グローバル化」について、今を時めくお二人の講演で会場は賑わいました。

『女性活用』の本気度

上野千鶴子先生



男女雇用機会均等法によって女性が活躍する社会になったでしょうか。答えはYES&NO。法律が成立した1985年は労働者派遣法も成立した年であり、男並みの

労働か使い捨ての労働かへと、女性の二極分解を生みました。男女平等政策の前提には「平和」があります。戦争は究極の人権侵害であり、不戦と平和に消極的な政党は男女平等にも消極的であり、女性の活用に熱心な政党が女性の人権に熱心であるとは限りません。それでも「政治は人災」であり「沈黙はすなわち同意」です。おまかせ民主主義から脱却して、政治は変えることができます。



今、盛んに言われている「女性活用」の実態、背景、歴史等が、関西弁も混じる爽快な上野節で語られ、会場は笑いや共感の渦に包まれました。(12月1日)

グローバル時代のコミュニケーション 鳥飼玖美子先生



現在の日本社会のキーワードの ひとつは「グローバル化」であり、 小学校からの英語教育、留学の奨 励等、学校教育もどんどん変わっ てきています。しかしグローバル

人材は誰のためかというと、企業戦士育成が主な目的です。グローバル時代は英語だけではなく、現代は多言語社会であり、異文化コミュニケーションとは文化的他者との関係構築です。グローバル時代のコミュニケーション力とは、相手の文化や世界観を尊重しつつ、自らの考えを論理的に説明し、相互に歩み寄るコミュニケーション力なのです。

 \Diamond \Diamond \Diamond

講演後、マンガやアニメの日本文化、留学、言語 教育の在り方などについて活発な質疑応答がなさ れ、楽しく意義深い講演会でした。 (12月15日)

立教のクリスマス



立教大学で一番季節を 感じることができ、また 立教らしさに触れること ができるのがクリスマス です。今年も聖歌やハン ドベルの響きとともに キャンパス内の約25mの

ヒマラヤ杉にイルミネーションが灯され、大きなクリスマスツリーが夜空を彩りました。クリスマスイルミネーションの点灯期間は教会の暦に従い、キリストの降誕を待ち望む期間(降臨節)からキリスト誕生を祝い、地上への顕現を祝う日(顕現日1月6日)までの間です。点灯式から始まる立教大学のクリスマスシーズンには、ハンドベルクワイアコンサート、メサイア演奏会、キャロリング、そしてクリスマス・イブ礼拝などさまざまなプログラムがあります。

立教セカンドステージ大学でも東京都の歴史的建造物に選定されている第一食堂で12月19日にクリスマスパーティーが開催されました。ヒマラヤ杉のクリスマスツリーのある正門から、赤煉瓦造りの立教のシンボル的存

下村文部科学大臣がRSSCを視察

11月5日、下村博文文部科学大臣率いる教育再生実行会議第2分科会(生涯現役等の実現や地方創生のための教育を議論)一行は、立教セカンドステージ大学の授業を視察した後、吉岡知哉総長をはじめRSSC関係者と懇談されました。4名の受講生代表が入室した直後、早大総長の鎌田実行会議座長は、RSSC方式とコミュニティーカッレッジ方式との比較について持論を開陳されました。受講生はそれぞれの経験とRSSCへの想いを述べ、委員からは、全学共通カリキュラムの履修に関し、学部学生との関係性について質問がありました。また分科会有識者の松浦坊府市長からは、授業が印象的であったことや、東京と地方の格差は中高年の教育機会にも現れているとの意見が示されました。

視察を終えた第2分科会は、翌週の会議で今回の視

察を踏まえて議論を しており、議事録に はRSSCの名も頻繁 に登場しています。



『日比谷松本楼』が立教に

セントポールズ会館で10月、松本楼が開店しました。明治36年、日比谷公園とともにオープンした老舗レストランは、大学構内では、東大、学習院に次いで3店目です。味とサービスはもちろんのこと、ゆったりとした静かな空間では、キャンパス内であることを忘れてしまいます。芝生に遊ぶハクセキレイやムクドリ、季節ごとの木々の風情を味わえる窓辺のテーブルはお勧め。2階会議室はRSSCの同窓会や研究会に利用されています。

在である本館の美しいアーチ状の中央通路を通り抜け、藤棚をくぐり抜けた先にある第一食堂は、映画『ハリー・ポッター』で見た食堂での儀式や正式な会食でも使われるような、漆喰をまとった壁面、アーチ型の窓が美しい食堂ホールです。

クリスマス実行委員長の開会の挨拶から始まったセレモニーでは、立教大学吉岡知哉総長の挨拶と中川秀樹チャプレンがクリスマスと食前の祈りを捧げ、いかにも立教らしい雰囲気でした。パーティーでは、立教大学ハンドベルクワイアの「天使の歌声」と称されるハンドベルの音色に心癒やされ、本科生の弾くショパンの名曲「革命のエチュード」に酔いしれました。そしてお楽しみのビンゴゲームではサンタクロースに扮した実行委員からプレゼントを受け取り大いに盛り上がりました。クリスマス委員会のメンバーが何ヶ月もかけて企画し準備した



クリスマスパーティーは、印象深い思い出の1ページとなりました。立教のクリスマスは多種多様な形でキリスト教に体験的に触れることができます。

立教大学原子力研究所見学会

10月15日20名を超える本科生が立教大学原子力研究所を見学しました。まず放射線の室内実験では α 線、 β 線、 γ 線といった放射線の種類別に測定器を使って数値を計りました。 γ 線の透過力(物を突き抜ける力)を塩ビ、銅板、鉛を使って測定すると γ 線を止める力の最も強いのは密度の高い鉛であることが数値上証明されます。測定室は誰でも入れる場所ですが、原子炉棟は管理区域のためスリッパを履きかえなければなりません。もちろん原子炉は稼働を停止し、燃料棒も搬出済みで原子炉タンク内には何もありませんが、稼働中は核分裂の連

鎖反応を起こしていた かと思うと感慨深いも のがあります。立教セ カンドステージ大学に いたからこそ経験でき る貴重な機会でした。



編集後記

一年の内に入学式から修学旅行(合宿)卒業式まで、さらに鈴懸の径が落ち葉で埋まる頃には修了論文の仕上げに追われ、こんなに



盛りだくさんの年は初めてでした。そんな中、8人のメンバーで14号を発行できたのは、原稿をお寄せくださった関係者の皆様のおかげです。

岩澤延枝 勝部昇 金子節子 川見治子 杉村和智 高見京子 津田龍美 亘浩